

旭川信用金庫と上川総合振興局との包括連携協定

～平成25年度の取組～

1 上川地域におけるブランド化推進に関する事項

(1) 「駅マルシェ」の開催

平成22年に開催されてから、4回目の開催となった「北の恵み 食べマルシェ」は、道北グルメが集結する巨大市場イベントとして、すっかり定着しております。

昨年も旭川市内・道北各地の農・畜・海産物を使った自慢料理や加工品が勢ぞろいし、旭川買物公園などにおよそ300のテントが立ち並びました。



平成24年度から、「食べマルシェ」の一会場として「道北地域連携 駅マルシェ」が開催されており、昨年度は、JR旭川駅舎での展示販売会のほか、上川総合振興局と旭川信用金庫が中心となり、「地域連携 きた北海道 食の商談会」を開催しました。

名称：道北地域連携 駅マルシェ2013

日時：平成25年9月14日（土）～ 16日（月）

場所：JR旭川駅 旭川市宮下通7丁目

（展示販売会出展社数：48社、来場者数：約15万2千人）

2 地元企業の販路拡大や取引機会の拡大に関する事項

(1) 「地域連携 きた北海道 食の商談会」の開催

道北地域の食品産業の振興を図るため、「地域連携 きた北海道 食の商談会」を開催し、道内外の食の専門家による商談の実施及び消費者ニーズや専門家の視点による幅広いアドバイスを行うことにより、道産品の販路拡大を図るほか、新商品の開発や高付加価値化を支援しました。

なお、商談会は、道北の食の魅力をPRする「北の恵み 食べマルシェ」「道北地域連携 駅マルシェ」と連動して開催することにより、効果アップを図っています。

また、参加企業のアンケート結果では、

- ・「当社のような小規模の事業者にとっては、販路拡大の貴重な機会であり、今後も継続してほしい。」
- ・「特に本州市場への足がかりとなった。」
- ・「プロの目を見た商品の改良点を参考に今後の商品企画に活かしたい。」

などの意見が寄せられ、約9割の企業が「満足」と回答。中でも、14社から、「受注」・「物産展への参加要請」など、何らかの成果があったとの回答がありました。

名称：地域連携 きた北海道 食の商談会

日時：平成25年9月14日（土）～ 16日（月）

場所：ロワジュールホテル旭川 旭川市7条通6丁目

対象事業者：地場並びに道北地域の農・畜・海産物、
これらを活用した加工食品等を取り扱う事業者（計27社が参加）



3 地域資源を活かした新たな事業の創出に関する事項

(1) 「北海道の森プロジェクト」の実施

旭川エリアの家具・木工は斬新なデザインと高度な技術で欧米からも高い評価を受けていますが、これまではトドマツ（針葉樹）を使って家具を作ることはほとんどありませんでした。

また、トドマツはこれから生産量の増加が見込まれる豊富な森林資源であり、新たな製品開発が課題となっています。

このような背景のもと、森林の現状を広く理解してもらい、木に触れ、親んでもらうことを目的に、旭川出身絵本作家あべ弘士氏のイラストが描かれたベンチ、テーブル等のトドマツ家具を(株)北海道ポットラックが企画・製作に携わり、旭川信用金の店舗において、引き渡し式を開催し、実証展示がスタートしました。

<日時>

平成25年3月19日(水) 8:40~

<場所>

旭川信用金庫本店ロビー



<出席者>

(株)北海道ポットラック

代表取締役 前田 あやの

絵本作家 あべ 弘士

旭川信用金庫

理事本店長 桶 利光

地域振興部長 荒山 恭一

上川総合振興局

地域政策部長 北村 英則

産業振興部長 早苗 保穂



<展示の概要>

北海道の森をテーマにした、ベンチ、
テーブル、絵本ラックの設置

<企画・製作>

(株)北海道ポットラック

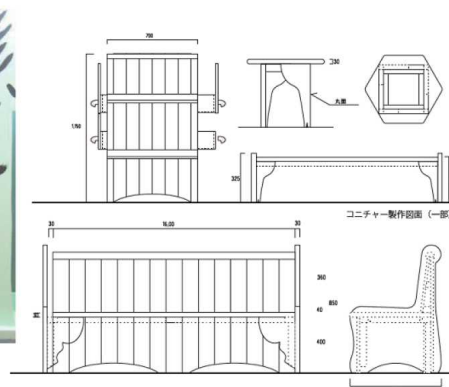
<デザイン>

あべ 弘士(絵本作家)

あべ 弘士 X CONITURE



あべひろしオブジェ (イメージ)



4 上川地域を担う人材の育成に関する事項

(1) 農業担い手ステップアップサポート事業の実施

上川総合振興局では、上川農業の次世代を担う意欲的な人材の育成・確保を図るため、平成20年度から農業者向けの研修会を実施しています。

今年は、外部講師として旭川信金の阿部推進役に金融機関の視点から健全な農業経営を行うための考え方などを講義いただきました。



日 時：平成26年2月26日 13:50～14:50

場 所：上川農業改良普及センター（当麻町）

対 象：就農後5年以内の新規就農者等

講 師：旭川信用金庫 地域振興部推進役 阿部 宗之

テーマ：「経営感覚を養う」